

五日市わかば保育園 令和7年度すくわくプログラム

テーマ 「暮らし」生活 活動報告



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

「とうきょう すくわくプログラム」は、
すべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探求心（わくわく）」を応援する幼保共通のプログラムです。



令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号:66-0469
五日市わかば保育園
あきる野市五日市98
社会福祉法人勸能力福祉会

1.活動のテーマ

豊かな自然に囲まれ、昔から受け継がれてきた暮らし方や伝統文化が今も息づくこの地域。その環境の中で、子どもたちが感じ、気づき、自ら工夫しながら学ぶことを大切に、さらなる成長につなげたいと考えています。五穀豊穡を願うお祭りに参加し、自分たちが大切に育てたものをいただく経験を通して、暮らしの豊かさを実感してほしい。そして、自分たちが育つこの地域に愛着をもつようになってほしいという願いを込めて、このテーマを設定しました。

2.活動スケジュール

- ・各月:園庭の畑・プランターでの栽培・収穫活動
- ・6月:田植え
- ・7月:野菜の収穫・調理
- ・9月:お祭り
- ・10月(11月)稲刈り・サツマイモほり
- ・11月:焼き芋・火起こし体験
- ・12月:大掃除・もちつき・鏡もち作り
- ・1月:鏡開き

3.活動をするための環境

わかば農園(畑・田んぼ)、種や苗、土、お神輿、お祭りごっこの素材(画用紙、ペン、マーカー)、火起こし道具、もちつきの道具、栽培や昔からの暮らしを知っているボランティアの方々



田植え～稲刈り



ふりかえり

6月 田植え 泥の感触に歓声を上げていました。不安そうにそっと一足入れる子も、最後にはどろんこを楽しんでいました。植えながら「どうしたら苗が寝ずに、立った状態で植えられるか」を試しながら植えたり、「これがお米になるんだね」「草みたい」とこれからの育ちを不思議そうに、そして楽しみにしていました。

11月 稲刈りでは自分で鎌を使い、稲を刈りました。刈り取った稲穂は、はさがけをして乾燥。地面に落ちている1本1本も拾って大事に干しました。ボランティアの先生が脱穀したあとの稲穂で「ほうき」を作って見せてくれると「作りたい!」「ほしい」と興味をもち、<大事な材料>となった稲穂をもらって帰ってきました。



ほうき作り・大掃除

稲刈りの時に見たほうき作り。自分たちで道具をこしらえてみよう。



ふりかえり



「作りたい!」「ほしい」ともらってきた稲穂。ほうきの<大事な材料>となりました。ボランティアの先生が作っていたのを思い出して作ってみることになりました。稲穂を束ね、そろえ、ワイヤーで括る。この作業もそれぞれ得意、不得意があることを仲間同士理解していました。自然と自分たちで分担して流れ作業で、ほうき作りが進みました。できたほうきをつかって大掃除。自分たちの使う場所はきれいにして年を越します。使ったほうきも大事そうに持ち帰っていました。



お祭り

五穀豊穡を願い、みんなで「わっしょい」と担ぐお神輿 伝統文化に触れる

環境

地域で古くから継承されているお祭り。神社の例大祭の日に合わせて、子どもたちが園で体験できる「お祭り」を計画し、開催する。

ふりかえり



いつも地域の人々をまもってくださる氏神様。
神社はお散歩の目的地にもなり、身近な場所です。
「神様、今日も遊ばせてくださいね」とご挨拶。
お神輿には鳳凰に保育園の稲穂を飾り、
「わっしょい!わっしょい!」と威勢よく担ぎます。お囃子に



合わせて、調子をとって太鼓を叩いたり、踊ったり、自然と体が動くという子もいました。
行事と暮らしが繋がっていることを肌で感じる時間でした。

お神輿の上の鳳凰がくわえているのは、ふじぐみさんが田植えをした稲の穂です。五穀豊穡を願って。





もちつき・鏡餅作り

田植え、稲刈りをして収穫したもち米がどのように変化するののかを確かめよう。

環境

蒸かしたもち米、もちつきの道具を準備。幼児は園庭にてもちつき。乳児はテラスでもちつきをし、白や杵に触れたり、それぞれのペースで参加できるようにする。ついた餅の感触を確かめたり、鏡餅作りができるようにする。



ふりかえり

もち米→蒸かしたもち米→餅→鏡餅と状態が変化することに気づき、とくに、餅の感触には興味をもって触れていました。「ふじぐみさんが田植えをしたお米だよ」と伝えるとより身近に感じている様子でした。大人が鏡餅を作る様子を見て、自分でも餅を丸めたり、遊びの時間に粘土で鏡餅を作る姿がありました。鏡餅の意味を知り、神様の依り代としてそなえることを知り、新しい年を迎えることができました。



火を扱う

人間だけが扱える火。昔の人も今の人もどんな時に、どうやって使うのだろう？



環境

お泊り保育のキャンプファイヤー、焼き芋での火起こし、キャンドルサービス 段階を追って、子ども達が火の特性を知り、暮らしとの関係性を感じられる活動を準備



ふりかえり

キャンプファイヤーで火が大きくなった時には危険感じて後ろに下がったり、花火の時には美しさに声をあげていました。どのように扱うと危険なのか、どのようにしたら安全なのかを常に意識して自分の動きをコントロールしていました。大人の声掛けのトーンも落として伝えることで、子どもたちが真剣に、また丁寧に火に向かえていました。明るさ、加熱、あたたかさ、落ち着きや静けさ等火の恩恵を感じ、また、危険な火の性質を知ったからこそ、扱う意識を高められたようです。